

科目名称：	保育実習 I	
担当者名：	村上 知子、山田 紀子、中村 明成、柴田 英登	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	実習	4
授業の目的・テーマ		
1. 学びつつある保育の理論と実践との統合をねらいとし、子どもの主体性を促す保育援助に必要な実践的知識・技能の習得を図る。 2. 保育全般に関する実践的側面について理解を得、目指す保育者像を探る。 3. 保育士資格の取得を図ることを前提に、保育者としての使命感を醸成する。		
1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4. 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)				100	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》保育士	《経験年数1》12年4ヶ月
	《内容2》幼稚園教諭	《経験年数2》19年・20年・22年
	《内容3》障害者支援施設 支援員	《経験年数3》10年10ヶ月
	《内容4》	《経験年数4》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
実習事前準備	年齢、季節に合った教材等が準備されている。	年齢に合った教材等が準備されている。	教材等が準備されている。	教材等の準備がされていない。
指導案	子どもの姿を理解し、ねらいに沿った環境構成・活動・援助留意点を書ける。	子どもの姿を理解し、環境構成・活動・援助留意点を書ける。	ねらいに沿った指導案が書ける。	子どもの姿が理解できず、ねらいに沿った指導案を書く努力が見られない。
記録	時系列でポイントを押さえ、ねらいに沿ってしっかり書くことができる。	時系列でポイントを押さえ、書いて書くことができる。	時系列で書くことができる。	誤字・脱字が多くまとめて書く努力が見られない。

授業の内容・計画、及び事前事後学修の内容・学習時間（分）	
<p><保育所実習の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 保育所の役割と機能 <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育所の生活と一日の流れ (2) 保育所保育指針の理解と保育の展開 こども理解 <ul style="list-style-type: none"> (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子どもの発達過程の理解 (3) 子どもへの援助やかかわり 保育内容・保育環境 <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全 保育の全体的な計画、観察 <ul style="list-style-type: none"> (1) 全体的な計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 専門職としての保育士の役割と職業倫理 <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 <p><実習など日程></p> <p>「保育現場体験学習」 3日間・・・1年次8月または9月 1講時・・・附属西南幼稚園にて行なう</p> <p>「保育実習Ⅰ（保育所）」 10日間・・・1年次12月</p> <p><準備学習></p> <p>事前・事後指導として「保育実習指導A」授業内で行う</p>	<p><居住型児童福祉施設等及び障害児者通所施設等における実習の内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 施設の生活と一日の流れ <ul style="list-style-type: none"> (1) 施設の生活と一日の流れ (2) 施設の役割と機能 利用者理解 <ul style="list-style-type: none"> (1) 利用者の観察とその記録 (2) 個々の状態に応じた援助とかかわり 養護内容・生活環境 <ul style="list-style-type: none"> (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 利用者の心身の状態に応じた対応 (3) 利用者の活動と生活の環境 (4) 健康管理、安全対策の理解 計画と記録 <ul style="list-style-type: none"> (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価 専門職としての保育士の役割と倫理 <ul style="list-style-type: none"> (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担と連携 (3) 保育士の役割と職業倫理 <p><実習日程></p> <p>「保育実習Ⅰ（児童福祉施設）」10日間・・・2年次6月または8月</p> <p><準備学習></p> <p>事前・事後指導として「保育実習指導B」授業内で行う。</p>

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(レポート)をまとめる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
各実習先の評価、実習生自身の自己評価を含む養成校による評価を合わせて行う。(100%)
(実習先からの総合評価が不可の場合は、幼児教育学科専任教員一同の協議で決定する)

課題に対してのフィードバック

実習記録および指導案を評価・確認し、返却する。

教科書・参考書

「これで安心！保育指導案の書き方」 開 仁志編著 北大路書房
「実習の手引き」 金城大学短期大学部